

# 平成28年度学校自己評価システムシート (県立南稜高等学校)

目指す学校像	明るく伸びやかな校風のもと、生徒たちが豊かな心を育み、高い目標に向かって意欲的に活動する学校を目指します。
--------	---

重点目標	1. 生徒の家庭学習習慣の確立と、教員の授業改善に向けた取り組み 2. 学校行事や部活動などを通じて自律的、主体的に行動できる生徒の育成 3. 一人ひとりの進路の充実と、低学年からのキャリア教育の推進 4. 家庭・地域との幅広いネットワーク作りと、学校からの情報発信体制の整備
------	---

達成度	A	ほぼ達成(8割以上)
	B	概ね達成(6割以上)
	C	変化の兆し(4割以上)
	D	不十分(4割未満)

※学校関係者評価実施日とは、最終回の学校評価懇話会を開催し、学校自己評価を踏まえて評価を受けた日とする。

出席者	学校関係者	8名
	生徒	27名
	事務局(教職員)	15名

※ 重点目標は3つ以上の設定も可。重点目標に対応した評価項目(年度達成目標を意味する。)は複数設定可。  
 ※ 番号欄は重点目標の番号と対応させる。評価項目に対応した「具体的方策、方策の評価指標」を設定。

学校自己評価						
年度目標				年度評価(1月12日現在)		
番号	現状と課題	評価項目	具体的方策	方策の評価指標	評価項目の達成状況	達成度
1	・授業満足度や授業への取組状況は良好であるが、家庭での学習時間は平日・休日ともに充分でない状況がある。	・授業を基本にした学力向上に向け、予習・復習を含む家庭での学習習慣を確立させる。	①年度当初に授業内容・家庭学習対策等の共通理解を図り、生徒自らが取り組む姿勢を継続的に指導する。 ②部活動との両立を踏まえた家庭での学習習慣を身につけさせる方策を検討する。	①学校生活アンケートにおける家庭学習の状況、授業満足度及び授業理解度の状況 ②学校生活アンケートにおける家庭での学習時間の増加	・授業満足度は若干減少。家庭学習は改善傾向。 ①授業満足度は少々減少。授業理解度は多くの項目で微増。 ②家庭学習時間は平日・休日勉強する生徒が微増。	A
2	・遅刻をしないこと、身だしなみのルールを守ることなど、高校生活に必要な基本的生活習慣の確立に課題のある生徒がいる。	・高校生活に必要な基本的生活習慣を確立させる。	①遅刻の指導、朝学習や授業の開始時刻を意識させることを通じて、時間を守る姿勢を継続的に指導する。 ②部活動での登下校時も含め身だしなみのルールを守る姿勢を継続的に指導する。	①遅刻者数の推移、朝学習や授業の開始時刻の状況 ②身だしなみのルールの遵守状況	・遅刻者数は全体的に昨年度よりも減少した。 ①朝学習の遅刻を点検し、遅刻者に指導を行い時間厳守を意識付けた。 ②各学年で月1回身だしなみ指導、再指導を実施。	B
3	・将来を見据えての堅実な進路志向が高まってきているが、進路選択範囲にはまだ拡大の余地がある。	・学問研究分野への興味や資格・技術取得等を見据えた進路選択を支援する体制の改善。	①1年次1学期から生徒の意欲喚起を促す各種行事の工夫と、効果的推進を図るための情報入手・活用を指導助言(支援)する。 ②3年間を通じた段階的・系統的指導を推進し、進路行事の検証、精選、工夫改善を行う。	①生徒の相談申込や進路資料室利用、資料貸出等の頻度の増加。また、一般受験クラスへの希望状況を含めた、進路相談機会の増加。 ②進路行事の検証機会の増加。	・各学年と進路指導部が連携して取り組んだ。 ①目標を定め早期から取り組む生徒が増加。論文添削・面接指導等、進路相談の機会は大幅増加。 ②進路行事ごとに検証を行った。新しい進路行事に取り組んだ。	B
		・一般受験に臨む意欲喚起・継続の工夫、生徒の意識付けをさらに向上させる。	①2年次からセンター試験の役割を認識させる行事を継続的実施する。 ②3年次からセミナーを計画的に実施し、模擬試験を効果的活用させる。	①センター試験、一般入試の上位校受験希望者の増加。 ②セミナー出席者数・模擬試験受験者数の増加。	・一般入試に向けた指導を行った。 ①センター試験の受験希望者が増えた。 ②セミナー、校内外の模擬試験の受験者は昨年とほぼ同数にとどまった。	A
4	・PTA活動の拡充のためには、本部役員や理事の保護者だけでなく、一般会員の保護者の参加が望まれる。	・一般会員の保護者が参加しやすいPTA活動となるよう工夫改善を行う。	①PTA行事において学校の教育活動の情報提供を積極的に行う。 ②一般会員の保護者を対象にした、参加しやすい新たな行事の提案を行う。	①教職員及び生徒からの情報提供の状況。 ②どのような家庭や保護者にも共通したテーマの行事の実施	・一般会員の保護者参加を意識して取り組んだ。 ①3回の理事会では分掌主任等から報告を、生徒から報告や発表を実施。 ②学年単位の保護者向けの講演会を実施。	A

学校関係者評価	
実施日	平成29年2月10日
学校関係者からの意見・要望・評価等	
・従来の講義調だけでなくアクティブラーニングなどの授業形態を積極的に取り入れることで授業理解度の微増につながっているのではないかと。	・学習法説明会での講義は生徒の意欲向上に効果的だったといえる。
・改善の余地はあるが、現状の課題解決に向けた取組は十分評価できる。	
・遅刻者全体の少なさは十分評価できるが、一部生徒が恒常的に遅刻している現状は改善する必要がある。	・遅刻指導と併せて、身だしなみや各種マナーの遵守など生活規律を確立する指導を根気よく続ける必要がある。
・生徒に学ぶことの大切さを伝えるためには、成功談も大切だが、失敗談を大人が語る必要がある。	・キャリア教育の推進において卒業生や保護者から講演していただくのは生徒に参考になると思う。
・1学年保護者対象の進路説明を実施したことが、一般受験クラス希望者数の増加につながったのではないかと。	・一般受験クラスの希望者が大きく増えたことは、今後の進路の取組に大きな期待と関心を寄せていることが感じられる。
・生徒及び保護者の進路に対する意識が変わってきているといえる。	・勉強合宿は良い取組。勉強する意欲につなげるためには、1年生の希望者を対象に実施するとより効果があがるのではないかと。
・総会や理事会のオープニングセレモニーとして生徒の活動発表や報告などを取り入れPTA行事の活性化につながった。	・学校と保護者の協力関係は極めて良好であると評価できる。今後、キャリア教育に係る講師協力など各種行事への関わり方に工夫を加えることで活動の拡充がさらに期待できる。